

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893900015		
法人名	社会福祉法人 勝心会		
事業所名	グループホーム 清音		
所在地	赤穂郡上郡町與井42-1		
自己評価作成日	平成26年4月3日	評価結果市町村受理日	2014年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi_p/informationPublic.do?JCD=2893900015&SQD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2014年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して今年で5年の施設で、構造的にも「和」のぬくもりを持ちながらも生活がしやすい造りとなっており、スプリングラ設備を備えている。また、すぐそばには千種川が流れ、整形外科・消防署が隣接しており、安心感の持てる場所に建設されている。生活面では、週2回の個別の音楽療法、訪問リハビリ、医師の往診がある。それぞれの利用者に合わせた生活の役割が、利用者はのびのびと生活を送っている。また、専門の医療機関で発行されている脳トレーニング帳を用いて、認知症の進行予防を図っている。地域のボランティア活動グループを積極的に受け入れたり、食事や喫茶、ドライブ、買物等地域への外出を楽しみ、地域から孤立せず在宅時と同じように開放的な生活を送れるように支援している。併せて生活が単調にならないように工夫している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世界的に有名なジャズミュージシャンを講師に招き、週2回サウンドセラピーを行っている。一人ひとり使用する曲を専門的な目で選び、実施した結果の反応、効果が個別に克明に記録されている。重度な認知症の人が鏡に映る自分の姿を見て、「年とったなあ」と言われたり、ほとんど歩けなかった人が歩けるようになるなど、効果が現れている。また、スウェーデン方式の清掃システムを採用し、大腸菌、黄色ぶどう球菌の除去率、抗菌効果を定期的に調査して、感染予防と環境を重視した安全で安心な掃除を行っている。日常の支援においては、レッテルを貼らない、決めつけない、お仕着せではなく、利用者本位に手助けをし、無理強いしないで、笑顔でいてもらう工夫をすることを心がけている。笑って生きてほしいの思いを常に持って、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び第三者評価結果 なでしこ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の唱和や理念研修で法人の理念を意識するように取り組み、共有と実践を図っている。	法人理念研修を実施している。ケアワーカー会議等で理念と支援を照らし合わせて振り返っている。体も心も寄り添う、地域密着型サービスであることを意識する、個人個人を大切にするなど理念の意味をかみくだいて説明し、意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	在宅でのかかりつけ医療機関や美容院の継続利用と地域の喫茶店利用や面会に来所されたなじみの方との交流、地域での毎日の買物等関わりが持てるように支援している。	自治会に加入している。自治会が行っている、踊りや歌を観るお楽しみ会に招待されて参加したり、消防訓練に参加したりしている。地域のボランティアを多く受け入れている。散歩中に言葉を交わしたり、農作物や花が届けられるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生の受入、家族、面会者などホームに来所された方へは認知症ケアへの手法の伝達に関して貢献できていると思われるも、地域に向けて活かすまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議で報告し、利用者さんへのサービスについて報告し委員の意見アドバイスを頂き、職員に周知、サービスに活かしている。	市担当者、自治会長、家族、地域代表、民生委員等が出席して開催されている。昨年の第三者評価結果を受けて、社協ボランティアコーディネーターの話を聞く機会を設けた。議題によって、警察、消防署等の出席を依頼するなどして、幅広い情報収集の工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密には言えないが、問題があれば報告しアドバイスを受けている。市町村担当者が運営推進会議のメンバーでもあり、円滑な情報交換を行っている。	事業者連絡会において、町から情報提供される。事業所のことを多くの人に知ってもらうために、町と協力して、上郡チャンネルを使って、PRすることになった。地域包括からは入居の相談があるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修で周知し、参加できなかった職員には資料を配布している。夜間以外は常に開錠し自由に入出りできるようにしている。	法人内の職員が講師となり、研修を行っている。今年度は身体拘束による弊害について学んだ。骨折後の対応で、家族の同意を得て、ベッド柵を使用したことがあるが、身体拘束はしない方針である。利用者への声かけについては会議で話し合い、日々のケアの中でも注意を払っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修で学び理念にも挙げられている人権に対する意識向上を啓発し、精神的にもそのようなことがないように努めている。	法人内の職員が講師となり、事例ビデオを見て、感想を述べ合う研修を行っている。グレーなケアについては会議で話し合い、改善を図っている。悩みを聞いてくれる相談窓口一覧表を掲示したり、法人に相談窓口を設置するなど、職員がいつでも相談できる体制を整えている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行ったり受けたりして制度の理解を促している。制度利用者には保険者からの郵便物を身元引受人に転送し、制度利用継続を支援している。	現在制度を利用している人があり、成年後見制度についての研修を実施している。相談があれば、管理者が対応し、専門機関につないでいる。日常生活自立支援事業については、管理者は理解しているが、勉強会は行われていない。	社会福祉協議会に講師を依頼して、日常生活自立支援事業の学習会を実施されてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前の段階から説明し、不安や疑問の解消を図るように努力している。面会に来所時も何かないか声かけし、理解が得られるように努めている。解約や改訂時も解りやすい説明や資料で理解、納得を得られるように努めている。	入居条件、他のサービスとの違い、利点、ケアのポイント、夜勤時の状況、さらにやむをえない強い希望があれば場合により看取りを検討、実施するなどを説明している。利用者が同席する場合もある。解約や改定等は文書を送付し、電話等で質問に応じ、納得の上、同意書を返送してもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が要望や苦情を言い易い雰囲気作り、面会時口頭での確認、意見記入欄を設けた個別の面会用紙利用で意見把握に努めている。	意見箱を設置したり、面会時に聞いたりしている。アンケートも実施している。職員の名前が覚えられないので、写真と名前を掲示してほしいとの意見を受けて、入口に貼りだした。また、駐車場に散歩コースを作してほしいとの要望を検討中である。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアワーカー会議ではもちろん日頃からの職員の意見に耳を傾け、可能な事は改善し、すぐ業務に反映するよう努めている。	ケアワーカー会議で聞いているが、管理者が直接聞くことが多い。早出、日勤、遅出の業務内容の改善、行事に関すること、トイレのペーパーホルダーの上に手すりを取り付けたり、厨房用品や血圧計等の購入など、職員の意見を反映する事も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況によりやりがいや向上心が持てるように、職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は仕事に当たっていない限り誰でも受けられ、法人外研修については誰でも望めば受けられるように掲示板に研修情報を掲示し教育的環境作りとモチベーションアップを図り、力量や興味に合わせて研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年5回程度相生市のグループホーム連絡会に参加している。また、互いに半日実習で学び合う機会や勉強会がある。その他にも交流の機会がある。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が大切にされ安心安全に過ごせるように、事前面接時から細心の注意を払って利用に関する不安や疑問の解消に努め、安心と信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時からホームの生活に慣れるまで、家族との連絡連携を密にし、要望の共有に努め、挨拶や会話で親しみやすく安心出来る環境づくり、信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先、優先事項は複数収集し対応している。最初から詳細な情報を全て把握することは困難であるが、利用する他のサービスを含め必要な情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がしたいこと、できることは(食事の準備・片付け・買物・掃除洗濯、畑や花壇の世話等)二度手間になったとしても積極的にしていただき、自立支援と能力維持・共存に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員がどんなに頑張ってもおおよばぬ家族の力と歴史・深い関係があることを理解し、家族職員双方の協力で支え合えるよう信頼関係作りに努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会などで来所された時は、明るく快い対応に心がけ、理解につながるように努めている。また、馴染みの病院や美容院の継続利用に心がけている。	総手紙の仲間が来て、利用者に教えてくれたり、家族、友人、知人が頻繁に訪れている。行きつけの美容院やこだわりの食べ物を買いに行く人がいる。家族と食事やお墓参りに出かけたり、電話で付き合いを続ける人もいる。ボランティア、家族の協力を得て、馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの過ごし方を見守り、行動と気分を把握するように努め、食事席の工夫や気の合う方同士がともに過ごし孤独を癒せる関係作りを行うため、声かけや環境整備に努めている。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も事務処理を行う機会があれば温かいメッセージを添えている。街で会う時があれば気軽に声かけを行ったり、家族からの声かけもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事内容やおやつ・お茶・レクリエーション活動への参加希望などについて、本人の思いを大切に意向の反映に努めている。	雑談の時や日々の関わりの中で聞いている。困難な場合は、その人の性格や時々発する言葉から判断している。聞き取った思いや意向は支援に反映するよう努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャー・入居先看護師・相談員などから各種情報を収集する努力をしている。各介護面でこれまでの生活について聞いたり、面会時家族との会話から情報を収集している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察や記録を見たり申し送りをしたり、ワーカー会議で課題や支援内容を検討している。また、課題が多い方に対してはカンファレンスを行ない、状況の周知を図っている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月第1水曜日ケアワーカー担当者会議で、一人ひとりについて話し合ったり、気になる都度ケアワーカーと話し合う、朝の引き継ぎの後皆で話し合う等して、それらを基に担当CWの意見を聞きケアマネジャーが立案している。	ケアワーカー会議での情報や普段の状況を職員に確認して、モニタリングを実施している。モニタリングの結果と家族、利用者、医師の意見を基に、半年に1回、サービス計画を見直している。利用者、家族の意向に添った計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録・日誌・経過観察記録をそれぞれが行い、共有している。会議で話し合って見直しをしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たな事業展開を検討し、利用者に新しいサービスを届け一人ひとりの現存能力を引き出し活用できるよう、話し合いながら柔軟に支援している。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、施設・病院・面会に来所された方等関係を把握したり、馴染みの関係を保てるようにして本人の精神的ケアに努め、意欲や楽しさを持っていただけるように支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の要望や事情に沿って職員がかかりつけ医への受診に付き添い、かかりつけ医への受診継続を支援している。	利用者、家族の意向を優先し、これまでのかかりつけ医を継続して受診支援している。家族による付き添いが出来ない場合は、職員が通院支援することで、かかりつけ医との関係性を大事にしている。他科受診についても、個々の状況に応じて柔軟に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	この3月看護師が配属されたので看護師に情報を伝達・相談している。それまでは、主に管理者、介護職が法人ナース・連携医院・受診先ナースやドクター・MSWに報告・相談を行っていた。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に個別の情報シートの提供を行い、入院後の面会では職員が顔を見せ会話することで、精神的安定を支援している。また気持ちの良い挨拶や会話、情報提供で病院関係者との関係作りにも努め、退院時に情報提供を受けている。	入院の際は、職員がこまめに病院を訪問し、利用者の環境の変化からくる不安を取り除くよう配慮をしている。同時に、家族と相談のうえ、早期退院に向けて医療関係者との情報共有に努めている。早期退院のための受け入れ体制についても確保されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにおいて、ターミナルケアが可能か否かを考える中で看護師の配置を実施した。今後、どこまでの支援が可能か具体的に再検討をしていく。また、家族の要望把握にも努めたい。	利用者、家族の意向に沿った終末期の対応を考えている。家族が安心して共に過ごせる環境と、職員がそれを支えるだけの力が必要であることから、具体的な検討を予定している。現在該当者がおり、利用者、家族からの意向を重視し、反映させていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応について、法人内研修があり、参加を促しているも、とっさの時に有用な実践力を身に付けるためには、繰り返し学んでいく必要がある。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	選任の防火管理者を配置しており、年に2回消防避難訓練を実施している。26年度は(地域の消防訓練を合わせ)実施し、近い将来の協力体制作りに向け、地域の方へグループホームの存在への意識付けに勤めた。	定期的訓練を利用者も一緒に行い、職員共に避難経路の確認を行っている。今年度は運営推進会議での紹介を受け、地域の訓練に利用者、職員の参加機会を得た。事業所は、これを機に、地域との協力体制作りへの足がかりとしていきたいと考えている。備蓄は確保している。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の介護の中や会議などで言葉による行動制限について討議を行い常に声かけには留意している。プライバシーや羞恥心、人権への配慮を欠かさぬよう声掛け留意しながら対応している。	職員は、普段の関わりの中で利用者に無理強いないことを意識し、利用者の笑顔が出るようこまめな声かけや接し方を心がけている。利用者一人ひとりの特性を十分把握したうえで、柔軟な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は誰でもいつでも自分の希望や思いを表出できるように声かけを行い買い物やドライブ・外食など利用者の自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事開始時間・入浴等時間の強制はなく、それぞれのタイミングに合わせて支援している。散歩等希望が有れば出来る限り実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んだりその人らしさを維持するために入所時は馴染みの物を持参していただいている。追加購入時は可能な方は本人との外出により自分で選ぶ機会を提供。化粧や爪の手入れも希望者は楽しめるように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材調理・盛り付け・テーブル拭き・食器洗い・片付け等それぞれの能力により積極的に手伝って、自分でできる喜びや職員と一緒に行う楽しさを感じていただいている。	季節に応じた旬の食材を取り入れ、色どりや盛り付けにも工夫を凝らすなど、家庭料理を中心としたメニューを作成している。利用者は当番表を基に、一緒に準備や後片付け等を行っている。リクエストにより、お好み焼きやサンドイッチ、おかしを買ってきて食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	天候や体調に合わせて声かけを常に行い、食事摂取量・水分摂取量、排泄状況等を記録して、必要量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要ない方には声かけし自力で歯磨きうがいをして頂いている。解除の必要な方には毎食後居室の洗面台にて口腔ケアを実施している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力おしめの使用を避けながら、個々に合わせた排泄介助に精一杯取り組んでいる。	トイレでの排泄を原則とし、夜間もできるだけトイレ誘導を行っている。利用者の能力を活かし、その人が望む適切な排泄方法を工夫している。失敗を無くすよう早めのトイレ誘導を心がけ、声かけのタイミングにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の管理や内服薬の状況を見ながら日頃の様子観察を行い、排便チェックを行っている。問題があれば家族や医師に相談しながら予防と対応に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を変えたり入浴時の声かけに配慮し、楽しんで入浴していただけるよう努力している。希望される方は毎日入浴され、時には1日に2回入られる方もいる。	利用者個々の習慣や好みを優先し、入りたい時に入浴してもらっている。困難な人には、職員がタイミングを見計らって声かけしたり、さりげなく誘導している。職員との会話を楽しみにしている人もおり、個別の時間を大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に気を付け、日中の活動レベル、前夜の睡眠状況に配慮しながら、昼寝を含めその人のペースに合わせた睡眠時間で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての服薬内容や副作用などについて理解することは困難であるが、処方薬の説明書を利用者毎にまとめていつでも確認できるように保管している。症状の変化があれば医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に合わせ、モップ掛け、ランチョンマット畳み、洗濯物たたみ、草抜き、調理の下ごしらえ、味付け、盛付、洗いもの、買い物、裁縫等、心身状況に合わせて生活の中での役割があり、脳トレや塗り絵、歌、読書、散歩、コラージュ、スポーツレク、体操等余暇活動もそれぞれ楽しんでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺への外出やドライブ等体調を観て行方。外出希望があれば、本人・家族・担当者・管理者と相談をしながら可能な限り実現できるように取り組んでいる。	利用者からの要望に応じ、買物や食材の買い出しに行っている。季節ごとに花を見に行ったり、毎月行事を行い、時には全員で外出する機会も設けている。家族や知人の面会の折に、一緒に散歩や外出することもあり、家族の協力は大きい。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金を所有している利用者は3名いるが、ほとんどの方が所有していない。外出時の購買意欲は低くその機会は十分ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は即座に対応し家族と会話ができるように支援している。希望があれば本人が年賀状などを出せるように支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間と明るく柔らかな光のある環境で落ち着いて過ごすことが可能。見晴らしの良い窓から見える景色から季節感を感じられる話題を提供したり、また、季節によって飾り付けなども変化させ、心安らぐ音楽を流す等、居心地よく過ごせるように支援している。	広いリビングには、複数の食卓テーブルと和室コーナー、ソファが置かれ、その他にも玄関横の交流スペース、2階ロビーと思いいに過ごせる場所がある。台所はオープンキッチンで、利用者も一緒に作業しやすく、様子がよくわかる。窓からは季節の移り変わりが感じられ、明るく開放的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビング内にテーブル・ソファ・和室があり、それぞれが思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入所前の馴染みの家具を搬入し家族等の写真を並べ本人が和める居室環境作りに努めている。	入口は、昔風の本製の引き戸で、全体が和風の作りとなっている。馴染みの箆笥、椅子やテーブル、使い慣れた日用品が思い思いに置かれている。その人その人の好みや暮らしぶりがうかがえるしつらえとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者においても使い易いトイレを備え手すりの設置で安全を確保している。居室の出切り口には個性的な飾り付けを行い、自分の居室がどこかすぐ分かるように工夫している。		